

ウクライナ難民支援につながる

御朱印巡り

— 平和への祈りと禅語に親しむ巡礼（5月31日まで） —

未だ困難な状況にあるウクライナ難民へ支援の輪を広げようと、曹洞宗群馬県宗務所第12教区・第13教区合同主催により、群馬県内の35カ寺院と1神社で「チャリティ御朱印巡り」を実施中です。平和への祈りを込めながら、参加寺院ごとに異なる限定御朱印を集めてみませんか。皆さんからの志納金は、ポーランドの役所を通じて、ポーランド国内にある難民への支援物資購入にあてられます。



日本から持参した御朱印帳はポーランド・シェラツ郡の博物館に展示されています。持参した日本のお菓子を、泣きながら食べていた子供たちの姿が忘れられないと高野さん。



左からアンドリュースさん、生沼住職、高野陽子さん

チャリティ御朱印巡りを発案 第2弾を継続実施

昨年、イタリア普伝寺参拝団を受け入れ、日伊合同大般若会祈祷会を開催するなど、国際交流の機会に恵まれた富岡市の曹洞宗寺院長学寺。住職の生沼善裕さんは、2022年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって以来、多くのウクライナ難民がポーランドに避難し、物資の不足などが深刻化していることを知り、何とか力になりたいと考えました。

そして「チャリティ御朱印巡り」を発案。協力寺院を募り、専用の御朱印帳を用意し、各寺院には禅語を記入した御朱印を用意してもらいま

ポーランドの人道支援に感銘 現地に飛んだご夫妻

貸衣装からウェディングプロデュースまで手がける高野陽子さん、夫でフォトグラファーのアンドリュースさんご夫妻。富岡市在住の二人は、生沼住職の良き隣人です。アンドリュースさんの母国がポーランドであることから、第一回目の取組みで集まった志納金で、避難所に必要な物資を確実に届けるという重要な役割を担いました。

夫妻は8時間という時差を乗り越え、ポーランドに住む家族や役所の人たちと連携しながら、現地の業者に発注し必要な物資をシェラツ郡の避難所に手配しました。

「ポーランド人の平均月収は6〜7万円程度。質素で儉約的な暮らしですが、それでも多くの避難民を受け入れています。人に対する愛情の深さや忍耐力など、頭が下がります」と話す陽子さん。「歴史的に見てもポーランド人は、困難な立場にある人々には国境を越えても迅速に手を差し伸べてきました」とアンドリュースさんは胸を張ります。

ポーランドに避難するウクライナ難民は約1千万人を数え、官民一体となって支えるポーランド側の負担も増大しています。シェラツ郡の避難所を訪れ、支援物資が既に他国から入ってこない状況を目の当たりにした夫妻は、帰国後に報告会を開き、この事業の意義と継続を訴え、第2弾の活動につなげました。



活動のシンボルマーク
「まひつる」

さくら(日本)、パンジー(ポーランド)、ひまわり(ウクライナ)。3国を代表する花と鶴(群馬)をデザインしました。平和への祈りを込めています。

御朱印巡り参加方法

支援専用のオリジナル御朱印帳(2000円以上)を寺院で購入していただき、各寺院めぐって禅語御朱印(300円以上)を集めましょう。20ヶ寺以上を参拝すると、2寺1社の特別なコラボ御朱印(各300円以上)が授与されます。さらに、全寺院参拝した人には、2寺1社よりコラボ御朱印に満願成就の書入れやスタンプが押印されます。

※2024年5月31日まで ※コラボ御朱印の書入れは7月31日まで



第2弾専用オリジナル御朱印帳
(2,000円以上の寄付)

参加寺院の
検索はこちら



避難所により必要な物資リストは異なりますが、多いのは保存ができる食品、洗剤、生理用品、オムツなど。靴下の大量発注がありました。ウクライナから歩いて避難してくると、靴下や靴はボロボロです。



子供たちには文房具、大人には食料や生活用品をエコバックに詰めて手渡しました。



アンドリュースさんがデザインした曹洞宗のロゴが入ったエコバック



避難所を去る時に、一人の女の子が駆け寄ってきました。どんな想いがあったのでしょうか。



今回の支援活動に対して、シェラツ郡からお手製の人形「モタンカ」や子供たちが描いた絵と一緒に、感謝の楯が送られてきました。



お父さん(左)や妹さん(中央)など、アンドリュースさんのご家族が物資を避難所へ運ぶなど協力しています。



参加寺院 2

曹洞宗 中法山 海源寺

富岡市富岡150 TEL 0274-62-0461



寺のシンボル



水琴窟の音が聞こえる休憩所

徳川幕府は、質の良い砥沢村（現・南牧村）産出の砥石を江戸へ輸送するための中継地として、

陣屋防備の目的で建立

子どもの健やかな成長や参拝者の健康長寿を願う目盛りの付いた「せたけ石」も設置されていて、家族でのお墓参りの際には記念写真などの記録に利用できます。

陣屋防備の目的で建立

世界文化遺産「富岡製糸場」のほど近くに位置する海源寺。南側を流れる鏡川の河岸段丘の上に立ち、眺望が広がる清々しい境内には、街の散策の途中に寄れる休憩スペースが確保され、腰を下ろすと、繊細に響く「水琴窟」の音が聞こえてきます。

まちなかの親しまれる寺院

また、訪れる人々の開運招福を願い、幸運を呼ぶ吉鳥、知恵の象徴であり闇夜でも目が利くことから、先の見通しが明るく、学業成就、商売繁盛の縁起物として親しまれるフクロウの石像が所々に安置されています。

第22世 岩崎義幸住職



ご住職は御朱印に「和敬清寂」（亭主と客がお互いに敬い合い、整然と茶室を整え静かな心でお茶をたてていただく姿に茶の湯の求める境地がある）という禅語を記し、「それぞれの個性を尊重しつつ認め合えば、「和」を生み出すことができます。どうぞ、思いやりの心で人に接し、心優しく健やかに過ごしてください」と話します。



ぐんま絹遺産・富岡市指定文化財「富岡製糸場 工女工女の墓碑」

ちもいきました。同寺院には、3名の工女工女の墓があります。若手県出身で26歳で亡くなった照井多計さんの墓碑には「夏の夜の夢路をさそふ時鳥我が名をあげて雲の上まで」という辞世の句が刻まれています。

参加寺院 1

洞谷山 角峯院 龍昌寺

安中市安中2-7-19 TEL 027-381-1348



108つの梵鐘で心を清める

かつて旅人や大名の参勤交代の行列が行き交った中山道。通り沿いにある老舗醤油店有田屋さんのはす向かいの路地を碓氷川に向かって進むと、日当たりのよい龍昌寺の境内に出ます。

最初に目を引くのは、参道の両端にずらりと並ぶ108つの梵鐘。「和合の鐘」と呼ばれ、開運小槌で「過去・現在・未来」と3回つくと、澄んだ音色が重なりあい、心を洗い清めるように響きます。左側より54の鐘をつき、本堂に参詣した後、別の列の54の鐘をつくと、迷妄の心が清められ大慈大悲の御仏の心が備わるとされています。

新島襄が最初に伝導演説した寺

同寺院の建立は、元和2年（1616）。創建以来火災に遭わず、7堂伽藍が立ち並んでいたと伝わります。しかし、明治初年の廃仏毀釈の波にさらされ住職は退去。取り壊しをまぬがれた山門と本堂は400余年前

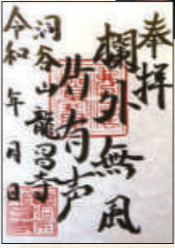


交通安全大観音

第32世 浅井聖道住職



ご住職は、御朱印に「欄外無風竹有声」（らんがいにかせのなくてたけのこえあり）という禅語を記しています。「世の中には原因と結果の関係だけでは割り切れないことがあると伝えているように思います」と、ロシアのウクライナ侵攻という理不尽な出来事に胸を痛めます。



の姿を今に伝えていきます。また、同寺院は1874（明治7）年に米国から帰国した新島襄が日本で最初にキリスト教の伝道演説をしたことでも知られています。当時は無住で公会堂的に使われていました。

T型フォードに乗った「交通安全大観音」と世界乗物博物館

一世帯当たりの自家用車保有台数国内トップクラスの群馬県。交通安全祈願をするにふさわしい「交通安全大観音」が祀られています。先代のご住職が故郷の四国から石を運び、史上初の大眾車として知られる「T型フォード」を台座に珍しい観音像を建立しました。

また、フェラーリやフィアットなど世界のミニカーを集めた



世界乗物博物館

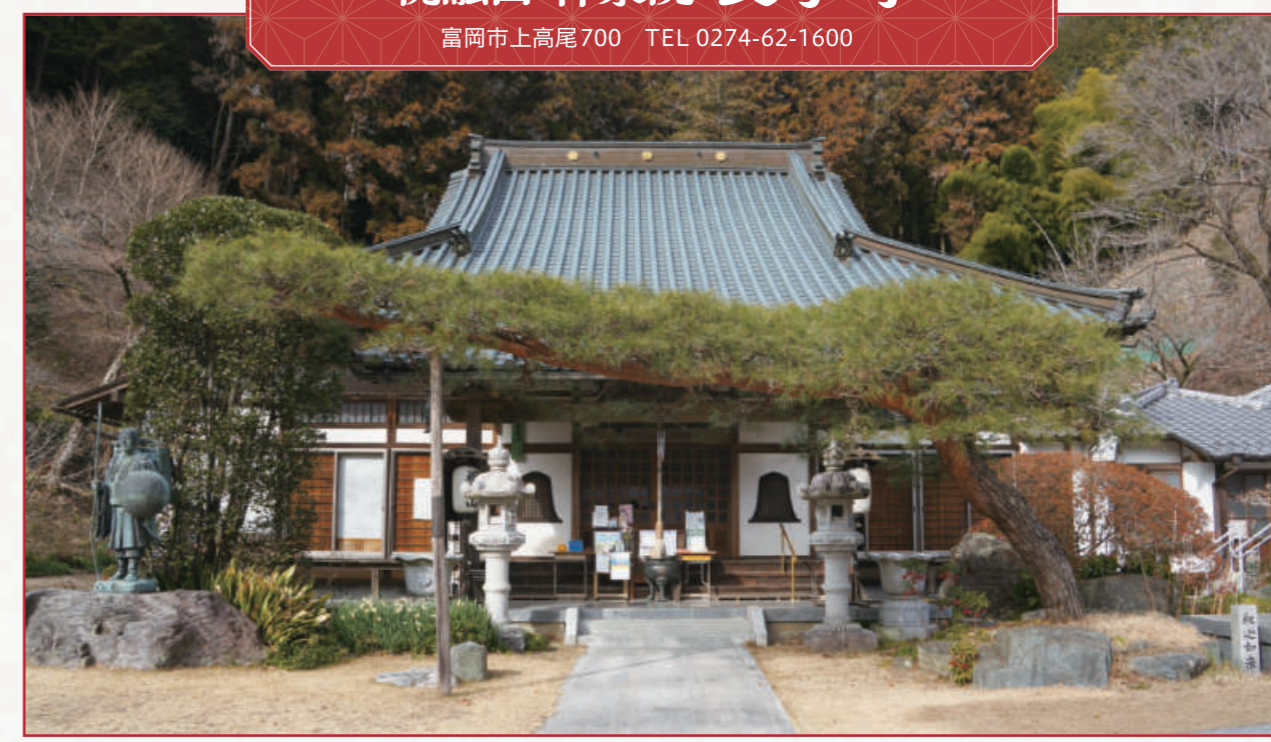
「世界乗物博物館」も見物です。プレミアアタのミニカーも混ざっているようで、こんな博物館がある寺院は稀有な存在です。



参加寺院 3

祝融山 神泉院 長学寺

富岡市上高尾700 TEL 0274-62-1600



四季折々の美しい景観

富岡市と安中市の境にある崇台山。その麓にある長学寺は、竜宮城を思わせる中国風の山門や、山寺の風情が素敵です。裏山にはハイキングコースが巡り、春には桜、初夏には紫陽花、秋には燃えるような紅葉が楽しめます。また、ハイカーの姿も見かけます。

響き地域の人たちに時を告げています。風が吹くとウインドチャイムの音色が美しく響き、静寂に華やぎをもたらします。

一千年以上の歴史

歴史をたどると一千年以上もさかのぼります。勅命により関東諸国を巡った弓削道鏡が薬師如来を勧請したことに始まり、承和2年(835年)山城国高尾山神護寺(京都府)の真澄が勅命によって関東諸国に一切経を納めた際、貫前神社の宮司に適地を



印象的な山門

選定させ、当地に一堂を建て祝融山高尾寺として開山。

その後、鎌倉時代に父の仇を討つたことで名高い曾我兄弟の死を悲しんだ大磯の虎女(虎御前)が、建久4(1193)年に善光寺参りの帰路、当地で兄弟の菩提を弔い、寺号を「長学寺」と改めたと伝わります。

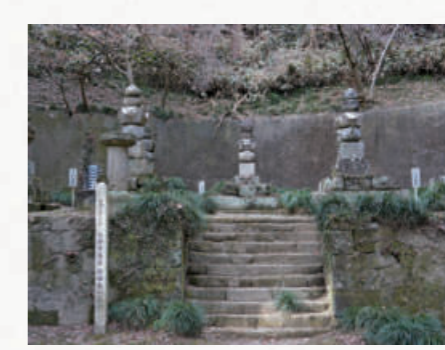
七日市藩主前田家の菩提寺

元和2(1616)年、加賀百萬石藩主前田利家の五男・利孝が七日市藩主となると、当寺院は前田藩の支配地になり、藩主の菩提寺となって厚い保護を受けました。

加賀藩が曹洞宗であり、七日市藩の領地内で唯一曹洞宗の寺院だったうえ、名刹で景観がよかつたという点が菩提寺となつ

た理由といわれます。前田家は、明治に至る二百五十余年、十二代にわたりこの地を治めました。

前田家の墓所は東京駒込の吉祥寺と分けられており、同寺院にある七日市藩主前田家の霊廟には、二代利意、三代利廣、五代利英、六代利理、十代利和らが眠っています。



富岡市指定史跡「前田家墓所 五輪塔」

第33世 生沼善裕住職



ご住職は御朱印に「千里同風」(遠く離れていても、言葉を介さなくても、心はつながっている)という禅語を記し、「言葉や距離の隔たりは関係なく、相手を感じる心はきっと伝わります。そんな温かく優しい気持ちで日々お過ごしください」と話します。

ペットを見送ったあとも「魂手箱」とともに温もりあふれる時間を

生前に用意する骨壺に「魂手箱」と名付けて制作を行う「M-LaRic」。

ペットのための「魂手箱」も制作しています。

生きているうちに骨壺を用意する理由は作る過程の心の変化と、お別れのあとの過ごし方にありました。

完成品例

小鳥やリスなどの小動物用、手元供養用、大型犬用まで、豊富なサイズが揃います。制作期間は平均2〜3ヶ月。分骨用の小さなサイズは1万円〜。猫は3万円〜。犬は個体差があるので金額は見積りて。



優しい瞳で飼い主に語りかけるよう



イチゴ好きだったからイチゴの柄を



リボン付きの可愛い形も作れます

2014年から、小皿やティーカップなど既製の白磁器に絵付けをするポーセラーツ教室を運営するエムラリック。代表の松島りかさんは、生前骨壺「魂手箱」の制作も手がけています。家族や自身の骨壺に、花、景色など、想いを込めた柄を絵付けして美しく彩ります。浦島太郎の物語に出てくる「玉手箱」。松島さんが調べたところ、「玉手箱」という成り立ちでした。「玉」は「宝物」、「手箱」は「容器」で、宝物を入れる箱という意味です。松島さんにとって一番の宝は「人生」。つまり命の時間です。そこで、「玉」↓「宝」↓「魂」と漢字を当て、「魂手箱」という素敵なネーミングに決めたそうです。かけがえのない家族の一員であるペットのための骨壺も「魂手箱」と呼んでいます。



絵付け中の松島さん。優しく明るく指導してくれました

「魂手箱」はシニアペットの飼い主、喪失感を和らげたい方、手元供養をお考えの方などにおすすです。生きているうちに作る理由は、「魂手箱」をオヤツやおモチャを入れる陶器の器として利用できるから。日々の生活で使うことで、ペットとの思い出が増えていきます。「天国へ送ったあと、飼い主さんが「魂手箱」を見て、可愛らしい仕草を思い出し、ほっと和むと

話を聞いて欲しいです」と話す松島さん。制作は松島さんに絵を描いてもらうオーダーメイドか、ご自身で絵付けをする自作か、どちらかを選べます。絵を描くのが苦手な方は、動物、花などが様々な種類の転写シールを使うと便利。自作の場合でも、松島さんがレッスンを通してフォローしてくれます。対面かオンラインなどで決め、いくつもの工程を経て仕上げます。完成していく過程で、ペットと過ごせる時間に期限があることを再認識し、一緒に生きられる幸せが改めて実感されます。

飼い主の愛情をたっぷり込めて作った、世界に一つだけの「魂手箱」。別れの後も、飼い主とペットを繋いで、温もりあふれる時間をプレゼントしてくれます。

DOMA (ドマ)
ポーセラーツ教室、展示会などを開催する鬼石のアトリエ
住所: 藤岡市鬼石61-3
TEL: 090-8464-1482 (来店は要予約)
定休日: 火曜の午前中、不定休



DOMAは松島さんの祖母の家。リフォームして使用しています。土間があり、昭和の雰囲気があります

M-LaRic (エムラリック)
ポーセラーツ教室を本庄市・太田市・藤岡市で開催。オリジナル食器・生前骨壺・ペットフードボウルなどを制作しています。

